

【火山現象に関する予報及び警報の発表状況】  
いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する予報及び警報の発表履歴（10 月 31 日～11 月 6 日）

| 発表日時         | 火山名 | 警報・予報  | 概要           |
|--------------|-----|--------|--------------|
| 毎日 07 時、17 時 | 三宅島 | 火山ガス予報 | 島内の火山ガスの分布状況 |

表 2 11 月 6 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

| 警報・予報                  | 噴火警戒レベル<br>及びキーワード* | 該当火山                                                                               |
|------------------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 火口周辺警報                 | レベル 3（入山規制）         | 口永良部島                                                                              |
|                        | レベル 2（火口周辺規制）       | 浅間山、三宅島、桜島、<br>薩摩硫黄島、諏訪之瀬島                                                         |
|                        | 火口周辺危険              | 硫黄島                                                                                |
| 噴火警報及び火山現象<br>に関する海上警報 | 周辺海域警戒              | 福徳岡ノ場                                                                              |
| 噴火予報                   | レベル 1（平常）           | 樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾<br>妻山、草津白根山、御嶽山、富士山、伊豆大<br>島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃<br>岳）、霧島山（御鉢） |
|                        | 平常                  | 上記以外の活火山                                                                           |

\* 噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応をキーワードで示している。噴火警戒レベルを導入していない火山については、警戒事項をキーワードで示している。（本概況末の対応表参照）



図 1 噴火警報発表中の火山（11 月 6 日現在）

あさまやま

**浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

山頂火口の噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。また、夜間には高感度カメラ<sup>1)</sup>により微弱な火映が観測されている。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いている。11月5日19時30分に山頂直下のやや西よりでマグニチュード<sup>2)</sup>1.2のやや大きな火山性地震が発生したが、この地震に伴ってその他の観測データに特段の変化はみられなかった。

5日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり2,100～3,400トン(前回10月28日、2,600～2,900トン)と多い状態が続いている。

GPSによる地殻変動観測では、7月初め頃から深部へのマグマ貫入を示すわずかな伸びの傾向がみられている。

浅間山では、依然として火山活動が高まった状態が続いており、山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。風下側では、降灰及び小さな噴石<sup>3)</sup>にも注意が必要である。また、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

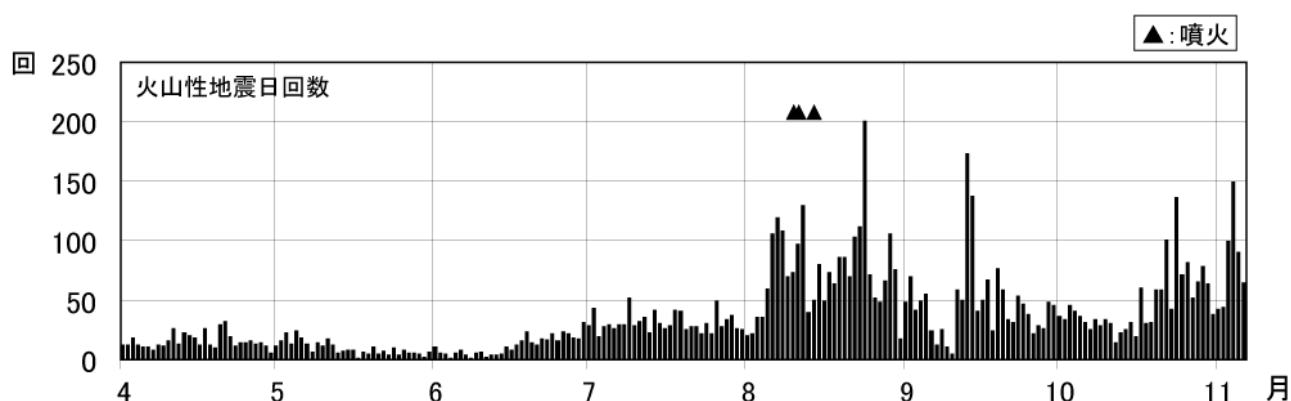


図2 浅間山 火山性地震の日別回数（2008年4月1日～11月6日）

- 1) 長野県建設部佐久建設事務所の黒斑山設置カメラ、国土交通省利根川水系砂防事務所の山麓設置カメラによる。
- 2) マグニチュードは地震の規模を示す。資料中のマグニチュードは暫定値で、後日変更することがある。
- 3) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

みやけじま

**三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

6日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,800～2,600トン(前回10月16日、1,400～2,100トン)と多い状態が続いている。

三宅島では、山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には泥流にも注意が必要である。

いあうとう

**硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]**

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動が継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくあかのば

**福徳岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]**

今期間、観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福岡ノ場では、引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

#### さくらじま **桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

今期間、噴火は発生しなかったが、夜間には時々、高感度カメラ<sup>4)</sup>で捉えられる程度の微弱な火映が観測された。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。桜島直下にマグマが新たに移動したことを示す地殻変動は観測されていない。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（あいら鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。

桜島では、引き続き南岳山頂火口及び昭和火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>3)</sup>（火山れき<sup>5)</sup>）にも注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。

4) 九州地方整備局大隅河川国道事務所の黒神河原上流設置カメラ等による。

5) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

#### さつまいおうじま **薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上100～300mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。

#### くちのえらぶじま **口永良部島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]**

火山性地震は少ない状態が続いているが、火山性微動は時々発生している。

島内に設置した遠望カメラでは、噴気が時々観測され、高さは火口縁上20～200mで推移した。

9月以降、GPSによる地殻変動観測で新岳火口浅部の膨張を示す変化が続いている。

口永良部島では、依然として火山活動は高まった状態が続いており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>3)</sup>にも注意が必要である。

#### すわのせじま **諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

あたけ御岳火口では小規模な噴火が時々発生した。これらの噴火に伴う噴煙の高さは火口縁上400～1,000mであった。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。

上記以外の火山では、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火の兆候はみられない。

**【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表**

| 噴火警戒レベル未導入火山          |        | 噴火警戒レベル導入火山    |  |
|-----------------------|--------|----------------|--|
| 警戒事項等（キーワード）          | 警報・予報  | 噴火警戒レベル（キーワード） |  |
| 居住地域嚴重警戒<br>または山麓嚴重警戒 | 噴火警報   | レベル5（避難）       |  |
| 入山危険                  | 火口周辺警報 | レベル4（避難準備）     |  |
| 火口周辺危険                |        | レベル3（入山規制）     |  |
| 平常                    | 噴火予報   | レベル2（火口周辺規制）   |  |
|                       |        | レベル1（平常）       |  |

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。